

練馬城址公園「古城の塔」に関する調査結果をお知らせします

この度、都市計画公園練馬城址公園区域内に存在する古城の塔について、建物の劣化状況等の調査結果（令和5年8月公表：耐震性の不足、コンクリート中性化の顕著な進行）を踏まえ、今後の建物の取扱いについて、複数の方針案を調査した結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

【調査結果の概要】

古城の塔の建物の取り扱いに係る以下の案について検討を行った

A案 建築物（立入可能）として利活用する

- ・耐震化・改修に要する費用：約4.6億円
- ・開口部をコンクリートで塞ぎ構造壁化する、室内部分への構造壁増設等が必要
- ・基礎の構造及び強度が不明※

※本建物は埋蔵文化財包蔵地に立地しており、建物を支持しながら基礎構造を調査するには、広範囲な掘削および相応の費用を要する。また、調査の結果、基礎の再構築が必要となった場合には、別途の工期及び費用を要する

B案 建築物（立入不可）として保存する

- ・展示保存上必要な改修工事（劣化修繕等）や外構工事の費用：約2.5億円
- ・安全確保のため建物周囲（塔から12m以上）への立入禁止等が必要

C案 建築物を撤去し、記録として保存する

- ・撤去費用：約0.5億円
- ・建物の一部保存またはデジタルデータにより建物の記憶を継承

⇒ 既存建物全体を保存することは課題が多く極めて困難であり、また、建物周囲への立入禁止等の対策は公園利用に影響を及ぼすことから、建物の一部を保存またはデジタルデータとして保存することを推奨

【今後の予定】

古城の塔の耐震化・改修を実施した場合、原型を大きく改変せざるを得ず、建物本来の姿を残すことは困難です。また、展示のために建物を保存する場合、広範囲にわたる立入禁止エリアが必要となり、公園利用に影響を及ぼします。

このため、古城の塔を撤去し、建物部材の一部を保存する等、地域と歩んできた記憶を継承する方法を検討するとともに、練馬城址公園のエントランスエリアにふさわしい整備を進めていきます。